

施設立地と施設運営で重視している事

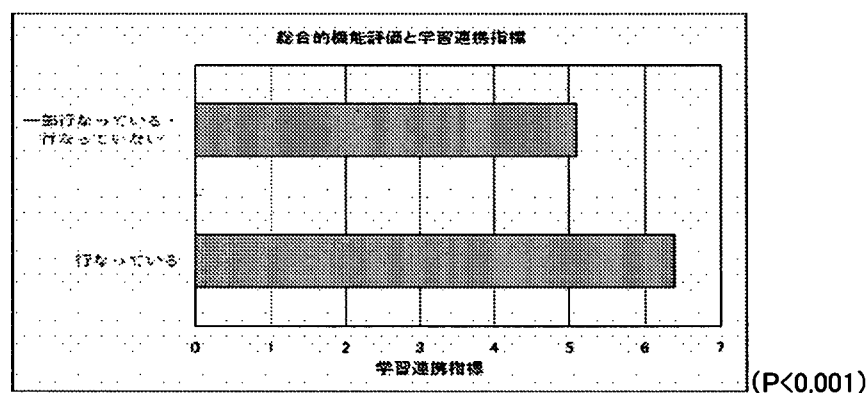
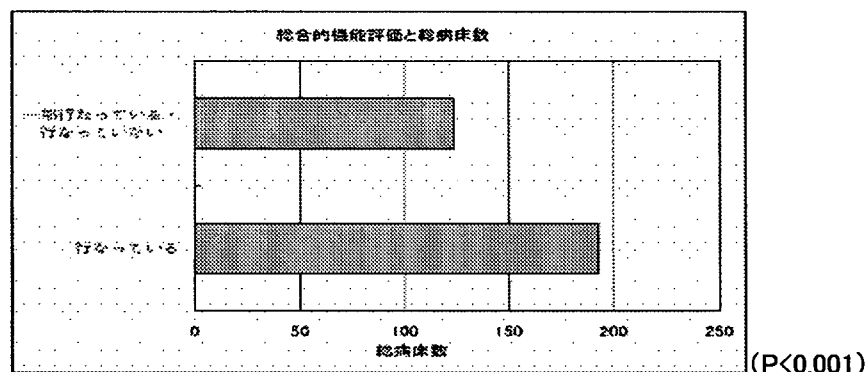
		施設運営で重視している事					合計	
		療養環境を 向上させる	在宅復帰を 進める	経営を安定 させる	良い人材を雇用 ・育成する	その他		
施設立地	それ以外(都市部など)	度数	27	8	20	15	2	72
		%	37.5	11.1	27.8	20.8	2.8	100
	住宅散在地域(郊外)	度数	48	2	21	13	8	92
		%	52.2	2.2	22.8	14.1	8.7	100
合計		度数	75	10	41	28	10	164
		%	45.7	6.1	25.0	17.1	6.1	100

(P<0.05)

3. 総合的機能評価の実施状況との関連について

総合的機能評価を実施している施設では、総病床数が多く、「学習・連携指標」得点が高い。また、療養病床再編についての考えにおいて、反対と賛成の両方に二分される傾向がみられた。

総合的機能評価の実施状況の分類と、「自宅退院率」などさまざまな退院率、「常勤医師率」など常勤職員率、「退職医師率」など退職職員率とは関連がなかった。また、施設長の「年齢」、「性」、「後期医療制度についての考え」、「施設運営で重視している内容」、「医師の採用に当たって優先している内容」、「認知症高齢者対応病棟設置の有無」とも関連はみられなかった。



総合的機能評価と療養病床再編についての考え方

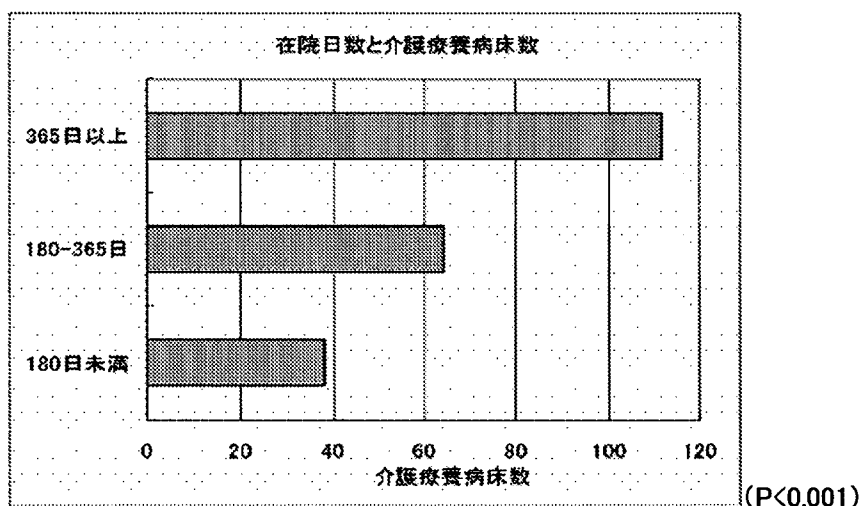
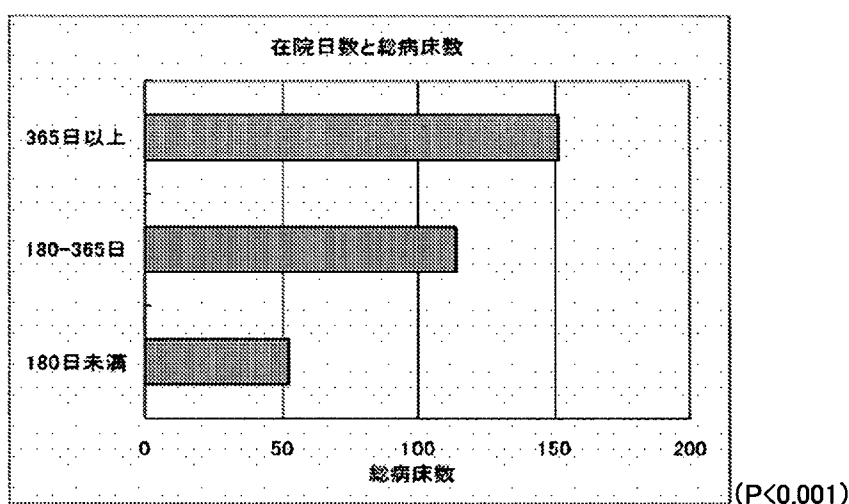
		療養病床再編についての考え方				
		賛成	どちらかと いうと賛成	どちらかと いうと反対	反対	合計
総合的機能評価の実 施状況	一部行って いる・行って いない	2	5	40	63	110
	%	1.8%	4.5%	36.4%	57.3%	100.0%
	行っている	3	6	10	35	54
	%	5.6%	11.1%	18.5%	64.8%	100.0%
合計	度数	5	11	50	98	164
	%	3.0%	6.7%	30.5%	59.8%	100.0%

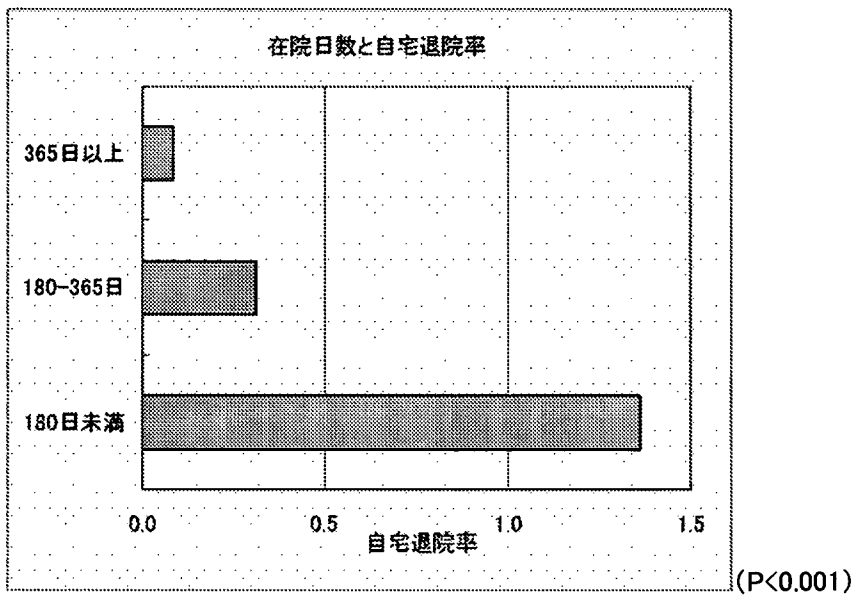
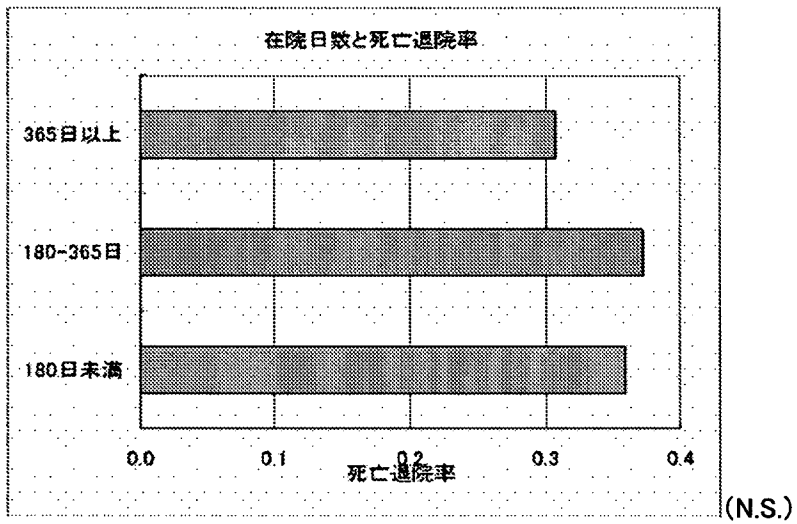
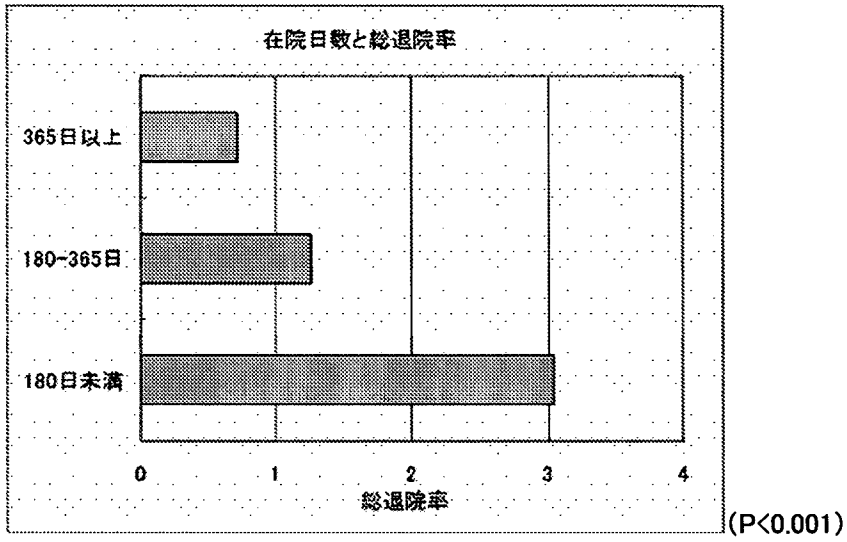
(P<0.05)

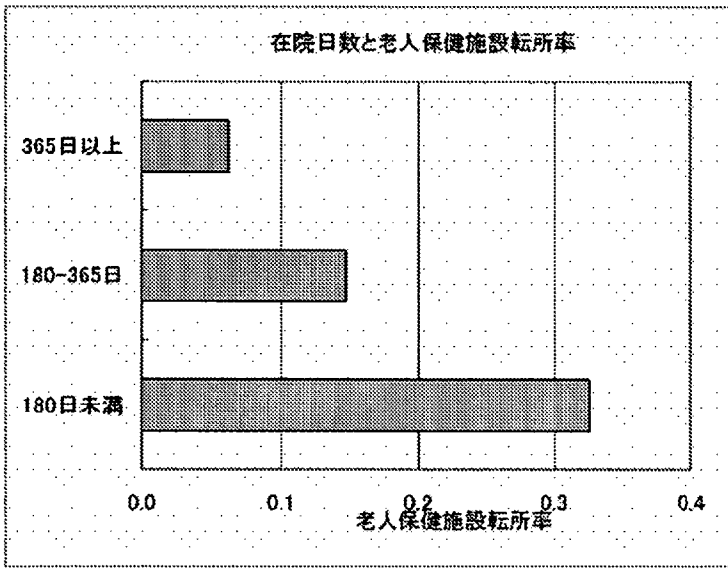
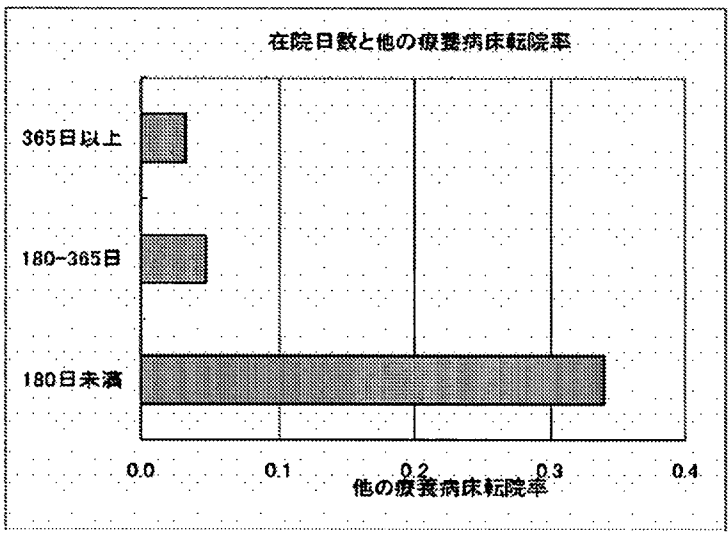
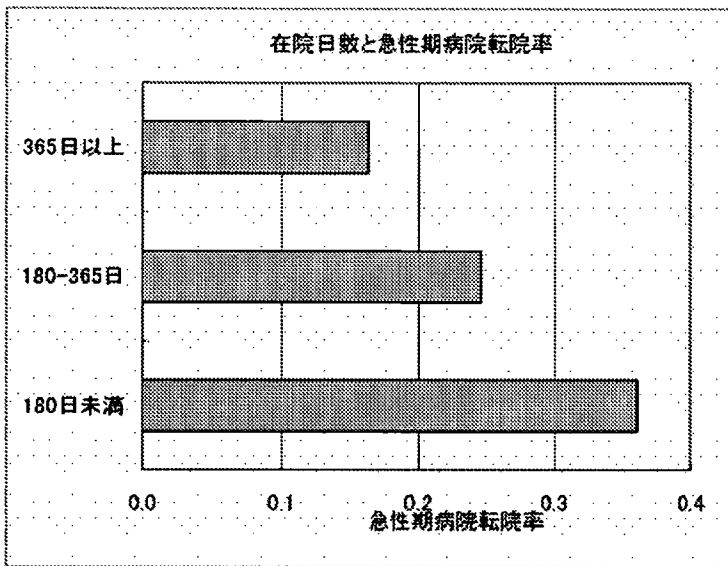
4. 在院日数との関連について

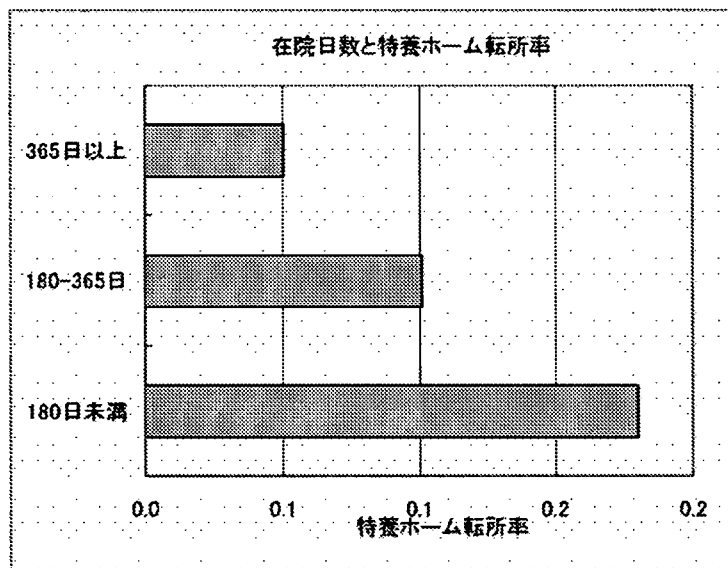
在院日数の長い施設は、総病床数、介護保険療養病床数が多く、総退院率、自宅退院率、急性期病院転院率、他の療養病床転院率、老人保健施設転所率、特養ホーム転所率、その他の施設転所率が低値であったが、死亡退院率については差がみられなかった。常勤医師率と常勤看護師率も低値であった。また、認知症高齢者対応病棟を多く設置していた。

在院日数の分類と、「学習・連携指標」得点とは関連がなかった。また、施設長の「年齢」、「性」、「療養病床再編についての考え」、「後期医療制度についての考え」、「施設運営で重視している内容」、「医師の採用に当たって優先している内容」、「総合的機能評価の実施状況」とも関連はみられなかった。

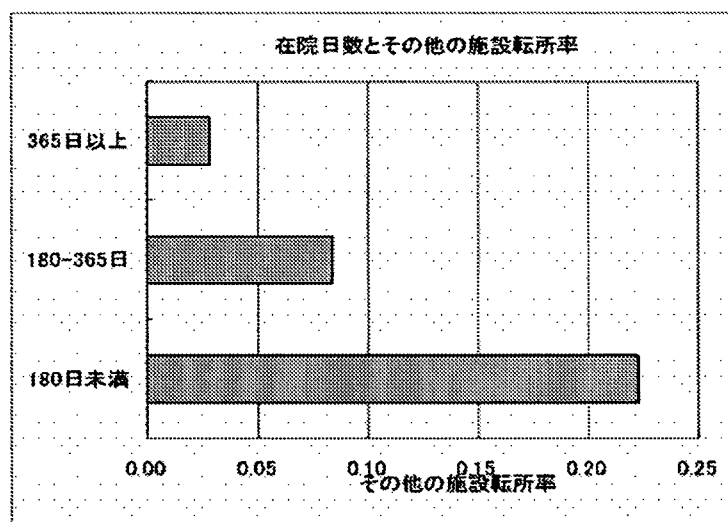




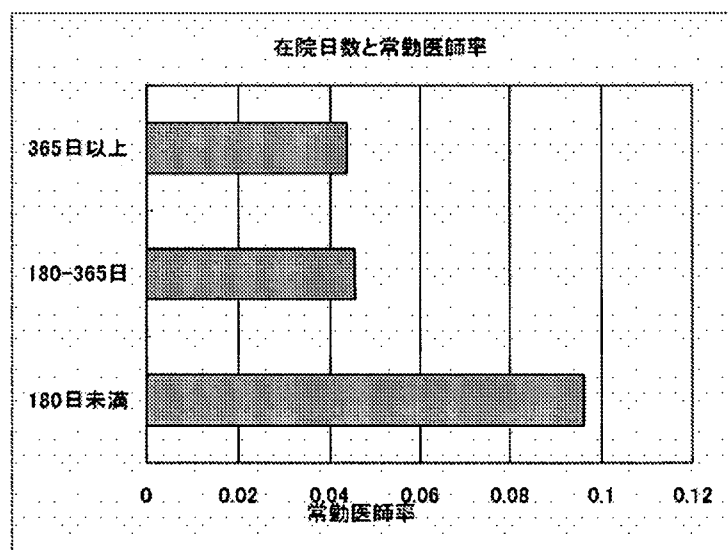




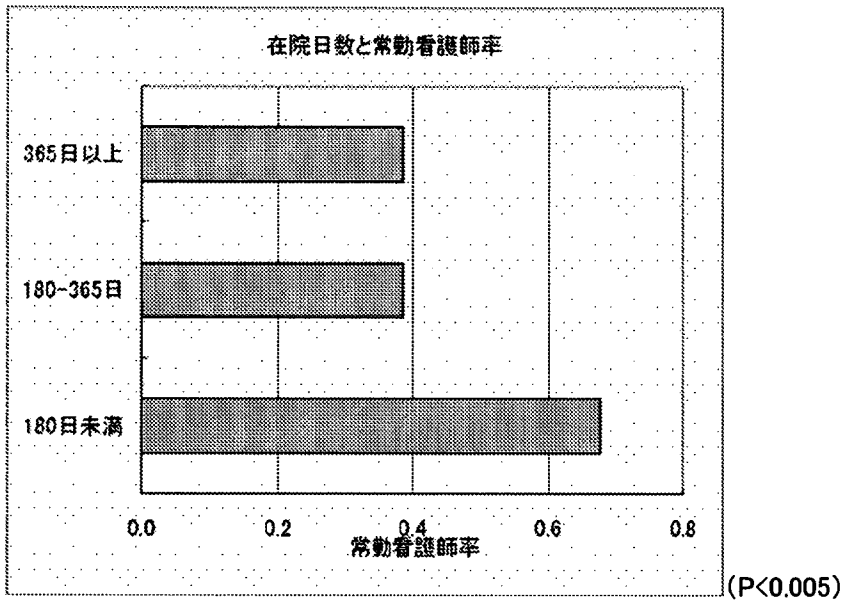
(P<0.01)



(P<0.05)



(P<0.001)



在院日数と認知高齢者対応病棟

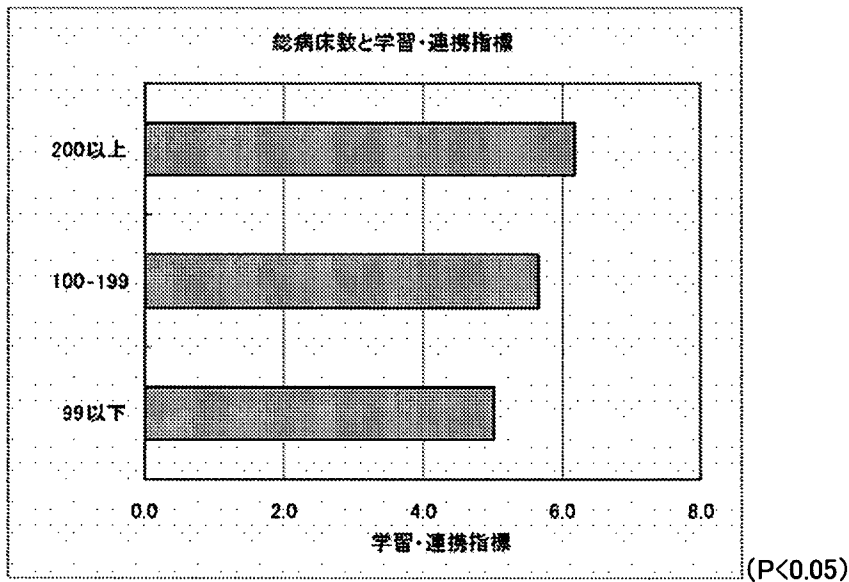
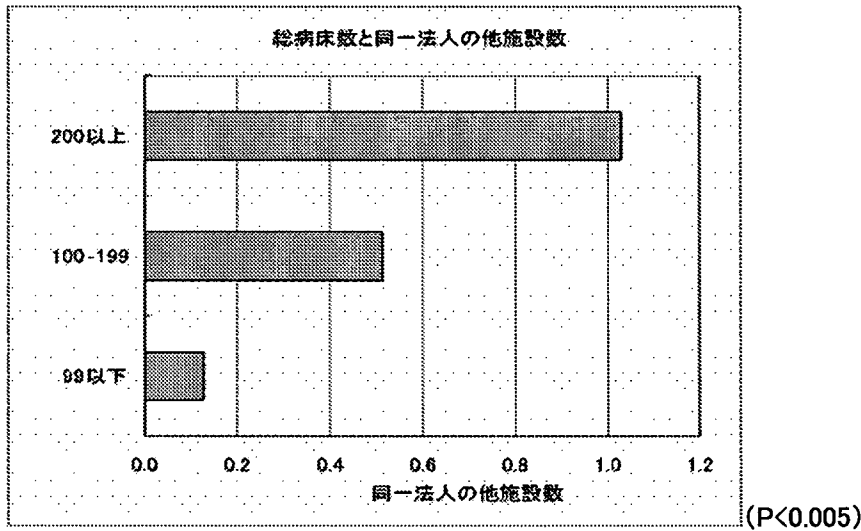
		認知高齢者対応病棟			
		ある	ない	合計	
在院日数	180日未満	度数	4	43	47
		%	8.5%	91.5%	100.0%
	180-365日	度数	13	37	50
		%	26.0%	74.0%	100.0%
	365日以上	度数	15	33	48
		%	31.3%	68.8%	100.0%
合計		度数	32	113	145
		%	22.1%	77.9%	100.0%

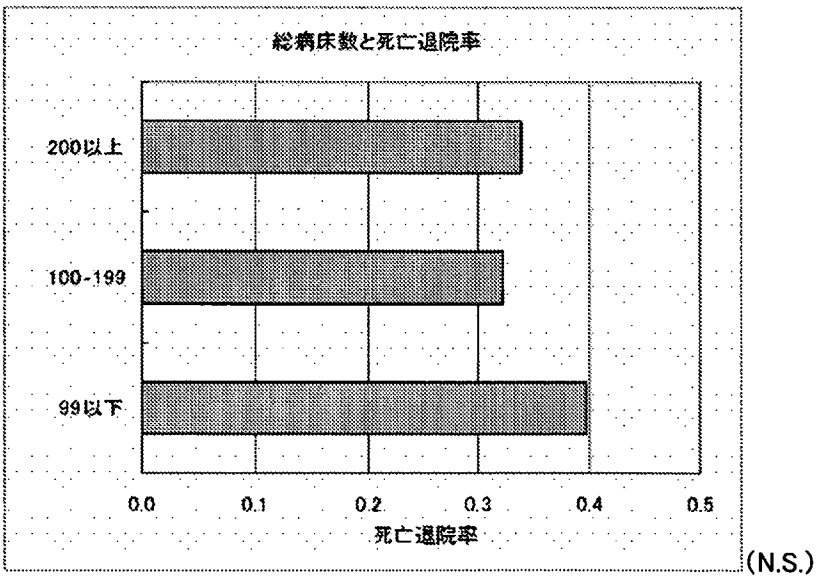
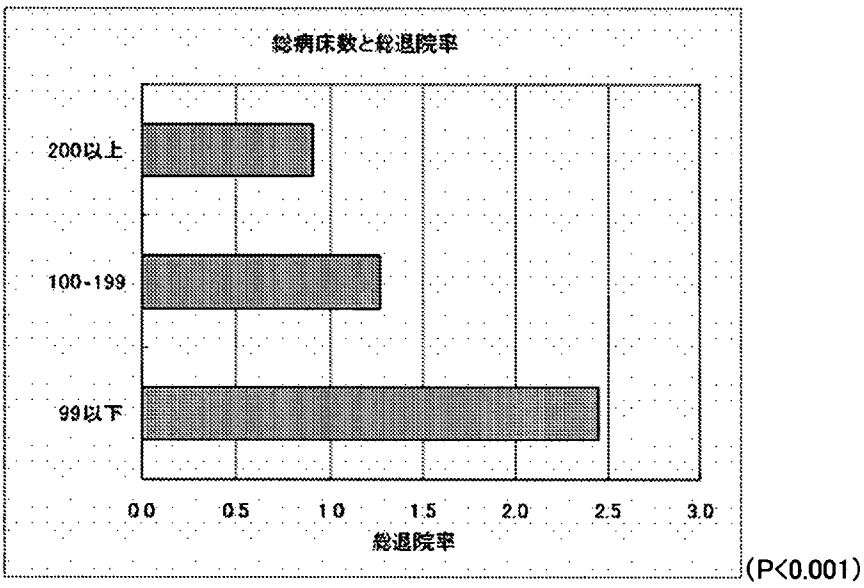
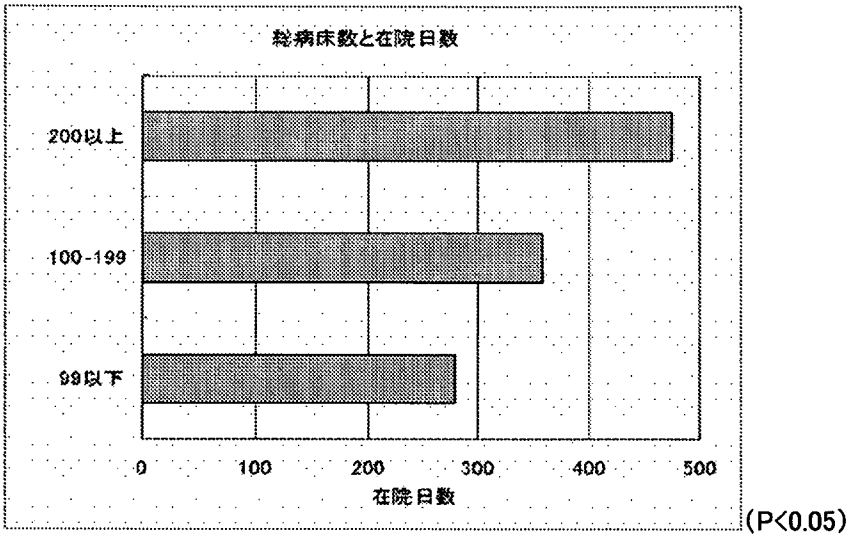
(P<0.05)

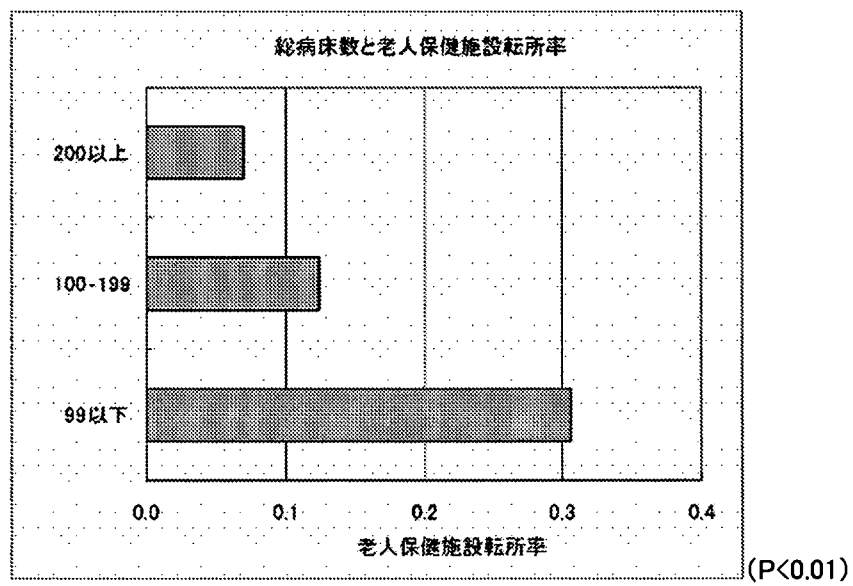
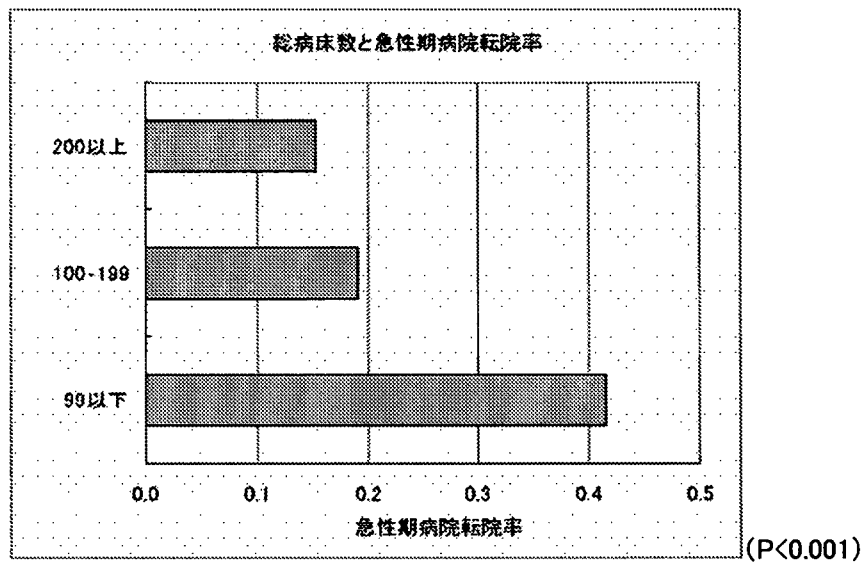
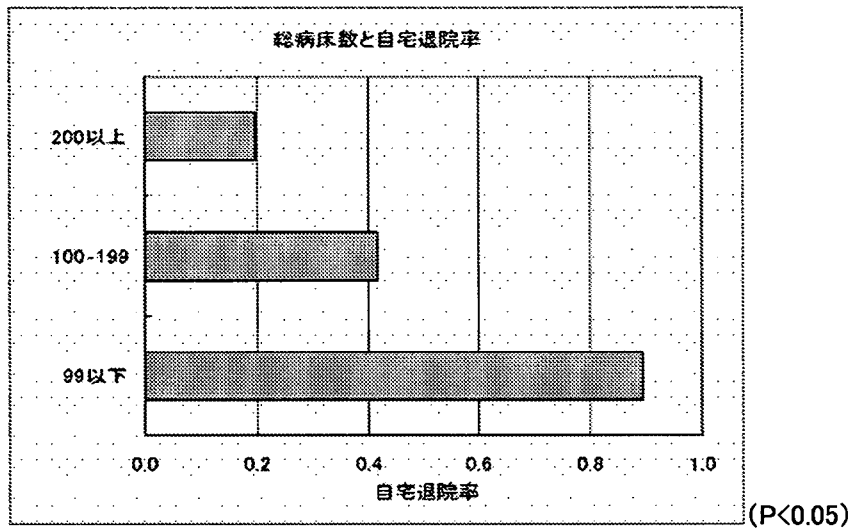
5. 総病床数との関連について

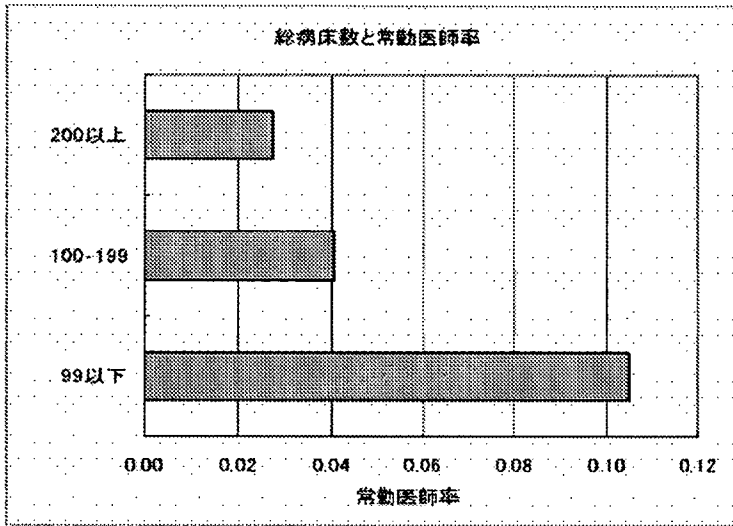
総病床数の多い施設では、同一法人の他施設を多くもち、「学習・連携指標」得点が高く、在院日数が長く、総退院率、自宅退院率、急性期病院転院率、老人保健施設転所率が低値であったが、死亡退院率については差がみられなかった。常勤医師率、常勤看護師率、常勤介護職率、常勤MSW率も低値であったが、退職看護師率も低値であった。また、総病床数の多い施設では、施設運営で重視している内容において、「療養環境の向上」を重視している割合は高く「経営の安定」を重視している割合は低かった。認知症高齢者対応病棟を多く設置し、総合的機能評価を多く実施していた。

総病床数の分類と、施設長の「年齢」、「性」、「療養病床再編についての考え」、「後期医療制度についての考え」、「医師の採用に当たって優先している内容」との関連はみられなかった。

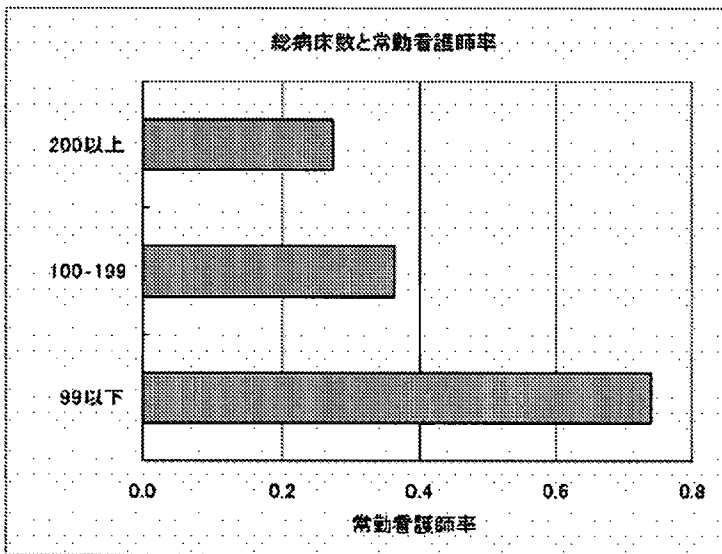




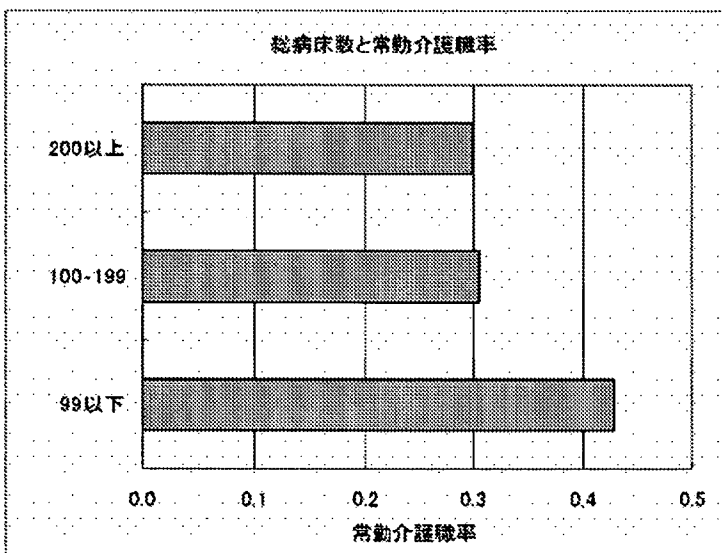




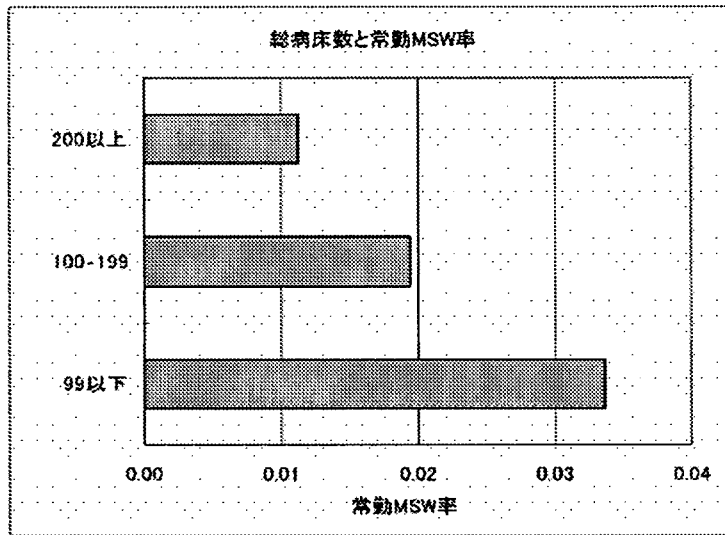
(P<0.001)



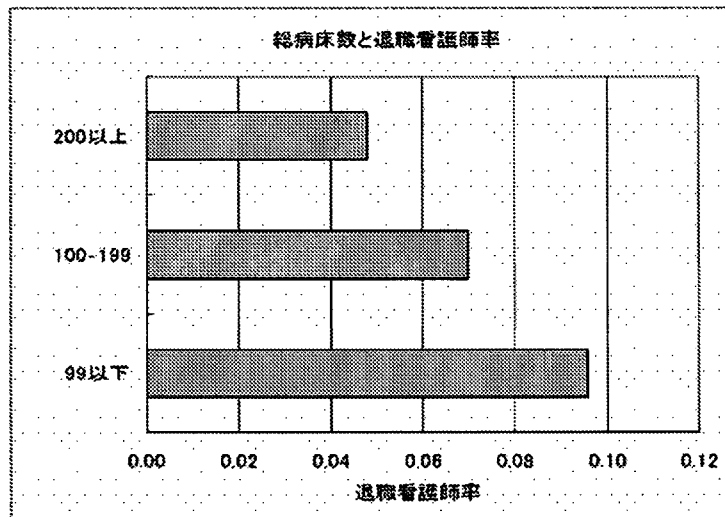
(P<0.001)



(P<0.001)



(P<0.001)



(P<0.005)

総病床数と施設運営についての考え方

		施設運営についての考え方						
		療養環境を向上させる	在宅復帰を進める	経営を安定させる	良い人材を雇用・育成する	その他	合計	
総病床数	99以下	度数	23	2	18	11	6	60
		%	38.3%	3.3%	30.0%	18.3%	10.0%	100.0%
	100-199	度数	30	7	20	10	1	68
		%	44.1%	10.3%	29.4%	14.7%	1.5%	100.0%
	200以上	度数	21	1	1	7	3	33
		%	63.6%	3.0%	3.0%	21.2%	9.1%	100.0%
合計		度数	74	10	39	28	10	161
		%	46.0%	6.2%	24.2%	17.4%	6.2%	100.0%

(P<0.05)

総病床数と認知高齢者対応病棟

		認知病棟			
			ある	ない	合計
総病床数	99 以下	度数	10	53	63
		%	15.9%	84.1%	100.0%
	100-199	度数	15	53	68
		%	22.1%	77.9%	100.0%
	200 以上	度数	13	20	33
		%	39.4%	60.6%	100.0%
合計		度数	38	126	164
		%	23.2%	76.8%	100.0%

(P<0.05)

総病床数と総合的機能評価

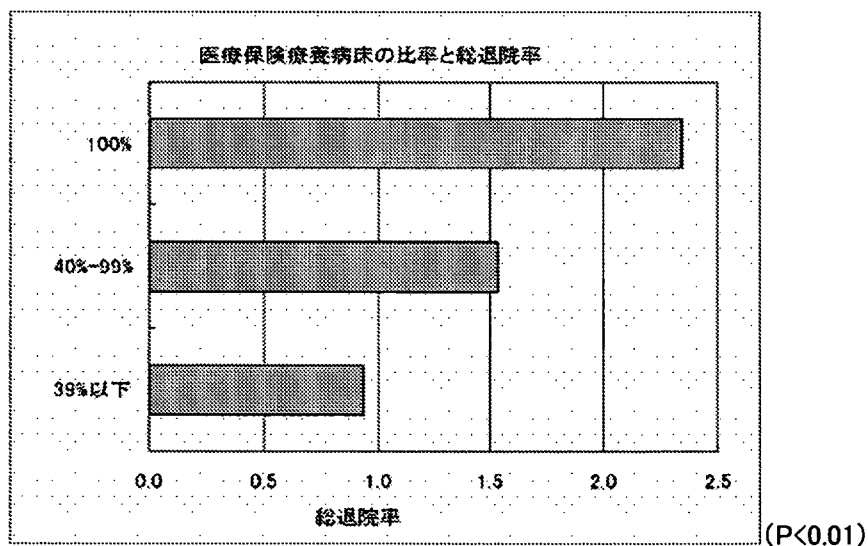
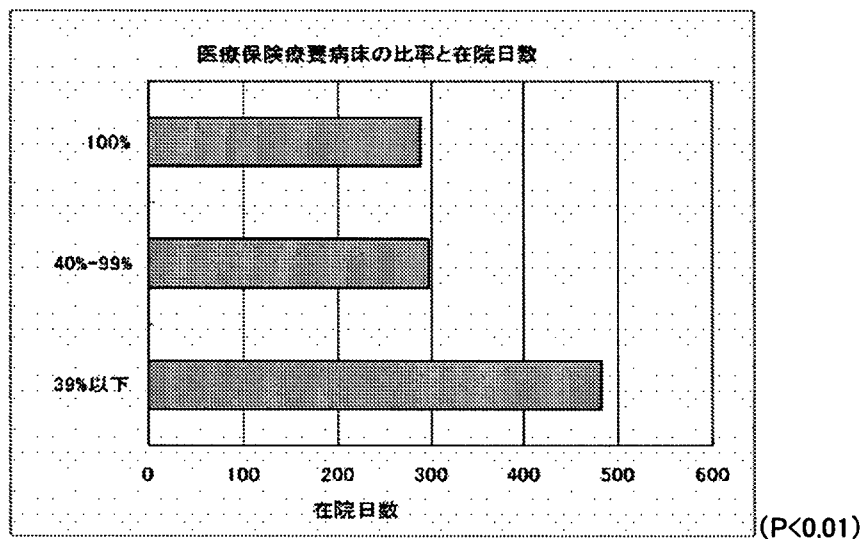
		総合的機能評価					
		行なっている	一部行なっている	行なっていない	わからない	合計	
総病床数	99 以下	度数	13	17	33	0	63
		%	20.6%	27.0%	52.4%	0.0%	100.0%
	100-199	度数	21	25	17	3	66
		%	31.8%	37.9%	25.8%	4.5%	100.0%
	200 以上	度数	19	7	5	2	33
		%	57.6%	21.2%	15.2%	6.1%	100.0%
合計		度数	53	49	55	5	162
		%	32.7%	30.2%	34.0%	3.1%	100.0%

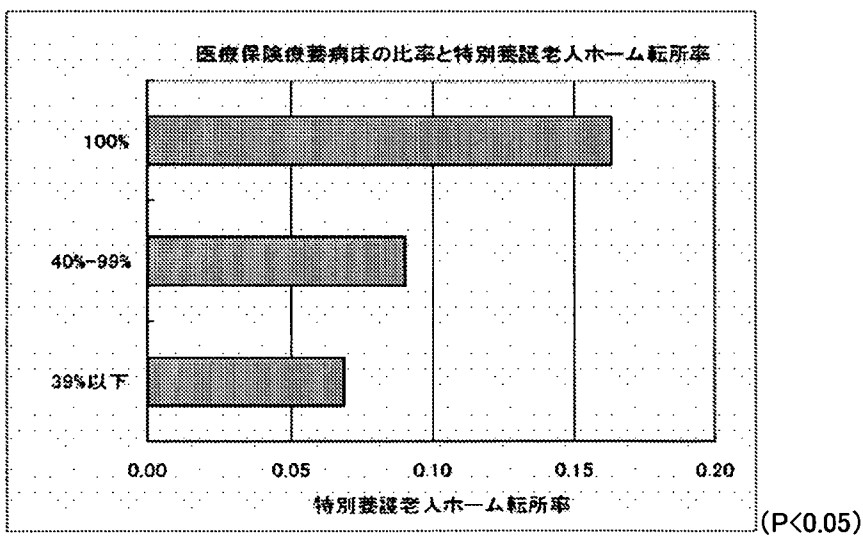
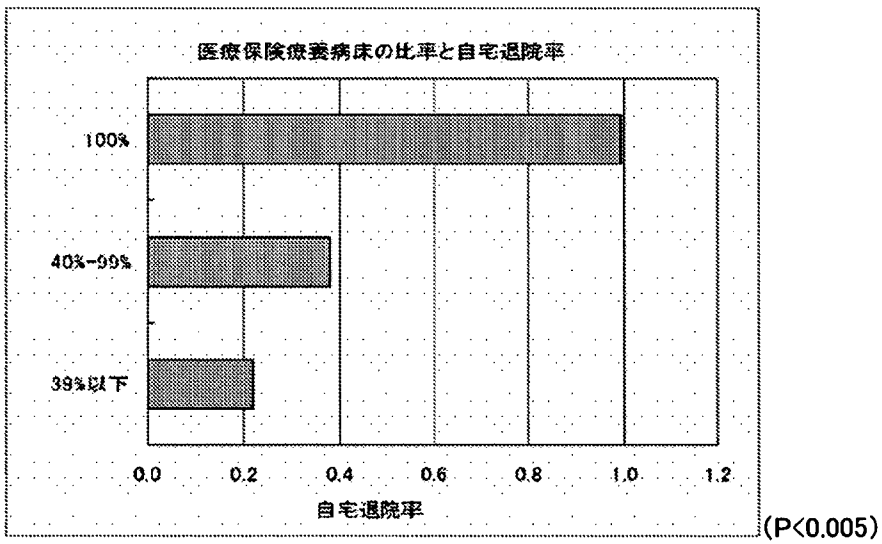
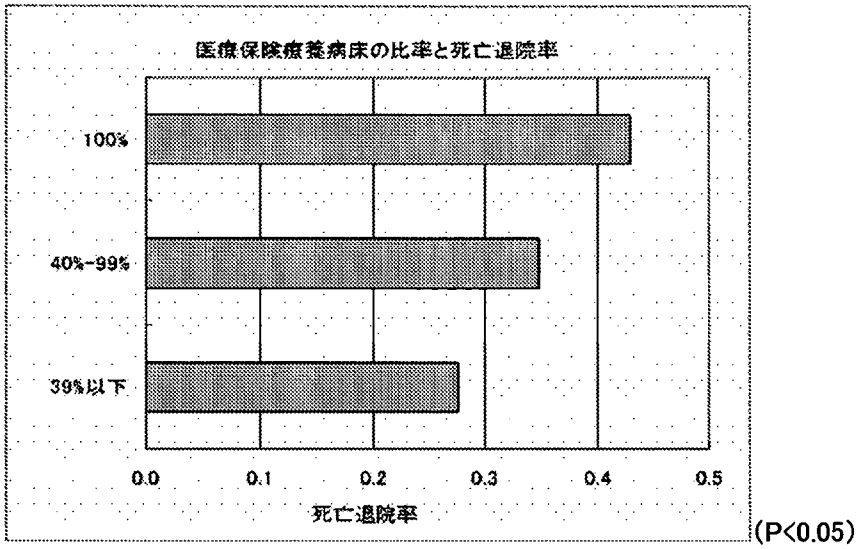
(P<0.001)

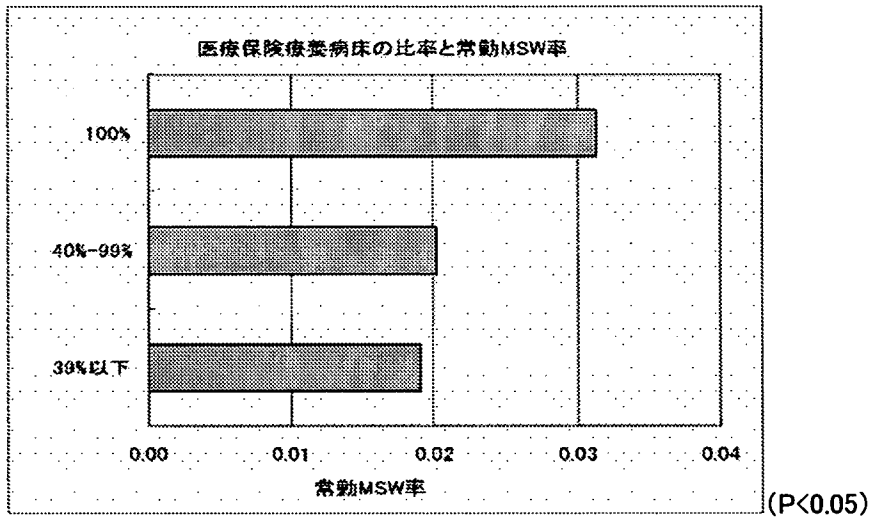
6. 医療保険療養病床数の比率との関連について

医療保険療養病床数の比率の高い施設においては、在院日数が長く、総退院率、自宅退院率、死亡退院率、特養ホーム転所率が高く、常勤 MSW 率が高値であった。また、医療保険療養病床数の比率の高い施設においては認知症高齢者対応病棟の設置割合が低かった。

医療保険療養病床数の比率の分類と、「学習・連携指標」得点、「退職医師率」など退職職員率とは関連がなかった。また、施設長の「年齢」、「性」、「療養病床再編についての考え」、「後期医療制度についての考え」、「施設運営で重視している内容」、「医師の採用に当たって優先している内容」、「総合的機能評価の実施状況」とも関連はみられなかった。







医療療養病床数割合と認知高齢者対応病棟

		認知高齢者対応病棟			
		ある	ない	合計	
医療療養病床	39%以下	度数	16	33	49
		%	32.7%	67.3%	100.0%
数割合	40-99%	度数	16	47	63
		%	25.4%	74.6%	100.0%
	100%	度数	6	46	52
		%	11.5%	88.5%	100.0%
合計		度数	38	126	164
		%	23.2%	76.8%	100.0%

(P<0.05)

2-2 医師

2-2-1. 医師への調査結果(単純集計)

回収率は 19.8%(144 施設/727 施設)、総数は 314 票であった。なお、各設問ごとに、記入もれ、不備のある回答は除外した。

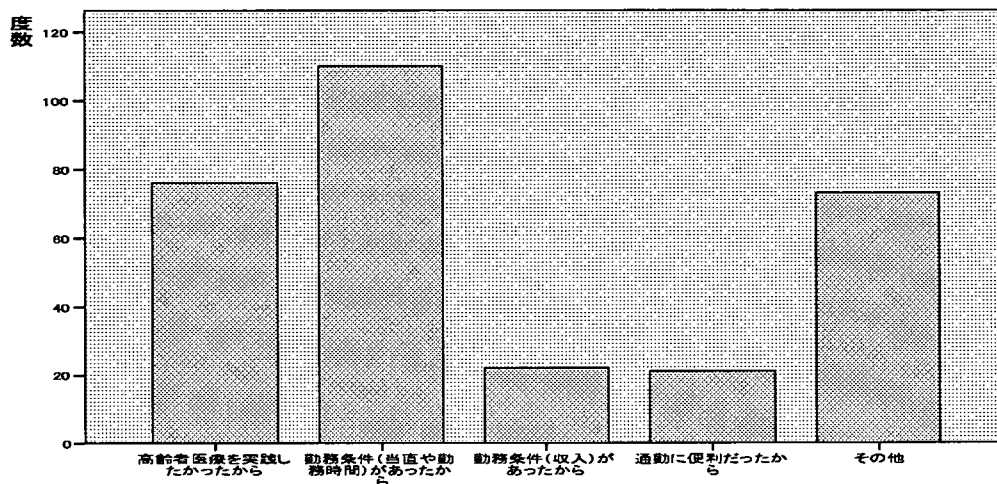
以下、本報告書の最後に掲載した調査票の質問にそって記述する。

1. 現在の施設(病院)に勤務した主な理由は次のうちどれですか。主なものを選んで○をつけてください。(○は1つ)

(1.高齢者医療を実践したかったから 2.勤務条件(当直や勤務時間)が合ったから 3.勤務条件(収入)が合ったから 4.通勤に便利だったから 5.その他)

現在の施設(病院)に勤務した主な理由は、「勤務条件(当直や勤務時間)が合ったから」35.1%が最も多く、「勤務条件(収入)が合ったから」7.0%、「通勤に便利だったから」6.7%を合わせると、「勤務条件」で選んだとする回答は48.8%と約半数に及んだ。「その他」では、「誘われた、頼まれた」、「医局より派遣された」、「自院だったから」、「親族の病院だったから」などの回答であった。また、「その他」の中で広い意味で高齢者医療の実践志向に含まれると考えられる「リハビリテーションを実践したい」「人生に密着した医療をやりたい」「高齢者医療への取り組みに共鳴」「排泄の臨床研究をしたい」を「高齢者医療を実践したい」の回答に含めると、25.6%(80/313)であり、高い割合ではなかった。

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
高齢者医療を実践したかったから	76	24.3	25.2	25.2
勤務条件(当直や勤務時間)が合ったから	110	35.1	36.4	61.6
勤務条件(収入)が合ったから	22	7.0	7.3	68.9
通勤に便利だったから	21	6.7	7.0	75.8
その他	73	23.3	24.2	100.0
合計	302	96.5	100.0	
欠損値	11	3.5		
合計	313	100.0		



2.高齢者医療で重要だと思うことは次のうちどれですか。該当するものをすべて選び○をつけてください。

(1.認知症の医学知識とケアについて 2.医療処置の選択と実践 3.総合評価の考えに基づくチーム医療 4.ケアの継続性と一貫性 5.転倒など老年症候群 6.新薬の知識と薬物療法の考え方 7.ターミナルの考え方と実践 8.その他)

高齢者医療で重要と思われることは、「認知症の医学知識とケアについて」15.3%(234/1532)が最も多く、ついで「ターミナルの考え方と実践」15.1%(231/1532)、「総合評価の考えに基づくチーム医療」14.0%(214/1532)と続いた。「その他」では、「家族とのコミュニケーション」、「リハビリテーション、介護保険の知識」、「老人病学について」「プライマリケアと医療の実践」などが挙げられた。

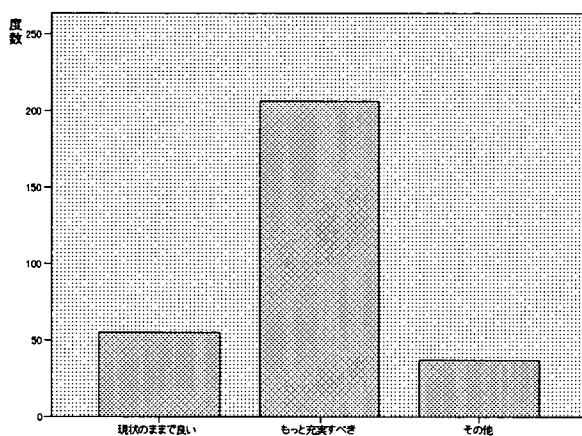
	度数	パーセント
認知症の医学知識とケアについて	234	15.3
ターミナルの考え方と実践	231	15.1
総合評価の考えに基づくチーム医療	214	14.0
在宅医療との連携	202	13.2
ケアの継続性と一貫性	184	12.0
転倒など老年症候群	182	11.9
医療処置の選択と実践	182	11.9
新薬の知識と薬物療法の考え方	73	4.8
その他	30	2.0
合計	1532	100

(複数回答)

3.現在の高齢者医療の現状についてのお考えは次のどれに近いですか。

(1.現状のままでよい 2.もっと充実すべき 3.その他)

現在の高齢者医療の現状への考え方は、「もっと充実すべき」65.8%が最も多く、「現状のままでよい」17.6%を大きく上回った。「その他」では、「終末期医療のあり方の見直し」、「慢性期における適切な医療」、などの医療の質の改善についての回答や、「個人負担の軽減」などの費用面改善についての回答、「医療報酬の見直しなどにより医療費抑制を図るべく縮小すべき」、「終身の施設や病院を増す必要がある」など医療制度改善についての回答がみられた。

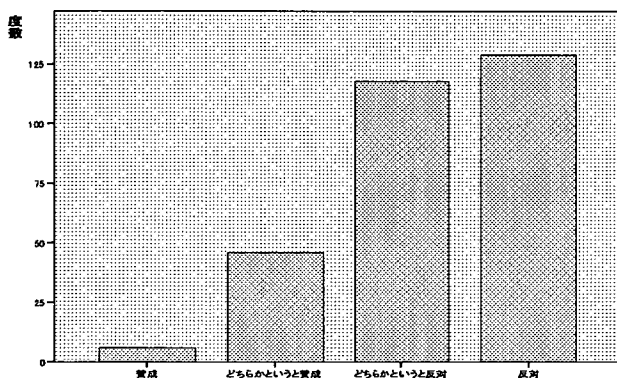


	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
現状のままでよい	55	17.6	18.5	18.5
もっと充実すべき	206	65.8	69.1	87.6
その他	37	11.8	12.4	100.0
合計	298	95.2	100.0	
欠損値	15	4.8		
合計	313	100.0		

4.今回の療養病床再編についての考えは次のどれに近いですか。

(1 賛成 2 どちらかという賛成 3 どちらかという反対 4 反対)

療養病床再編についての考えは、「反対」41.2%が最も多く、「どちらかという反対」37.7%を合わせると 78.9%であった。施設長の「反対」「どちらかという反対」を合わせた値 88.6%より約 10 ポイント低い値となった。一方、「賛成」は 1.9%で、「どちらかという賛成」14.7%を合わせると 16.6%であった。施設長の「賛成」「どちらかという賛成」を合わせた値 9.6%より 7 ポイント高い値であった。

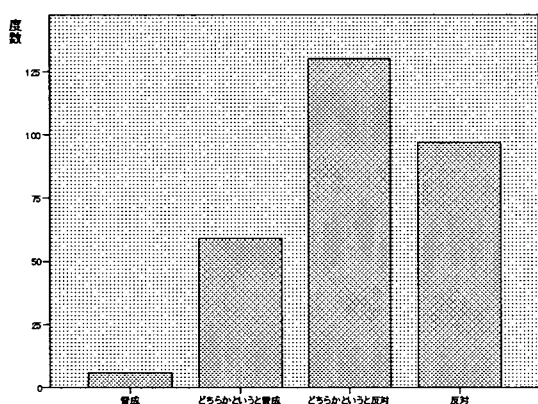


	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
賛成	6	1.9	2.0	2.0
どちらかという賛成	46	14.7	15.4	17.4
どちらかという反対	118	37.7	39.5	56.9
反対	129	41.2	43.1	100.0
合計	299	95.5	100.0	
欠損値	14	4.5		
合計	313	100.0		

5.後期高齢者医療制度改革についての考えは次のどれに近いですか。

(1 賛成 2 どちらかという賛成 3 どちらかという反対 4 反対)

後期高齢者医療改革についての考えは、「どちらかという反対」41.5%が最も多く、「反対」31.0%を合わせると72.5%であった。施設長の「反対」「どちらかという反対」を合わせた値82.0%より約10ポイント低い値であった。一方、「賛成」は1.9%で、「どちらかという賛成」18.8%を合わせると20.7%であった。施設長の「賛成」「どちらかという賛成」を合わせた値15.4%より約5ポイント高い値であった。

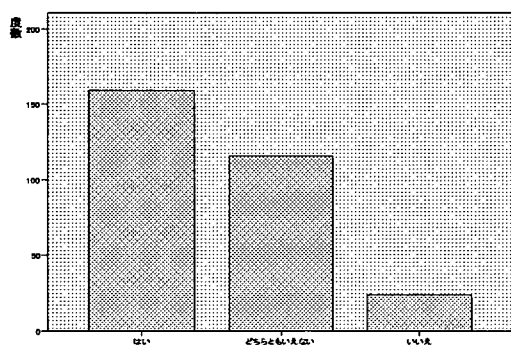


	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
賛成	6	1.9	2.1	2.1
どちらかという賛成	59	18.8	20.2	22.3
どちらかという反対	130	41.5	44.5	66.8
反対	97	31.0	33.2	100.0
合計	292	93.3	100.0	
欠損値	21	6.7		
合計	313	100.0		

6.現在の職場に満足していますか。

(1 はい 2 どちらともいえない 3 いいえ)

現在の職場に満足しているのは 50.8%であった。一方、満足していないと答えたのは 7.7%で、満足しない理由では、「制度上治療が制限される」、「人員の不足」など、医療制度の問題に対する不満や、「職員の待遇」、「経営方針」など、所属施設に対する不満が挙げられた。一方、「上司とあわない」、「いじめられている」といった内部の人間関係の不満もあった。



	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
はい	159	50.8	53.2	53.2
どちらともいえない	116	37.1	38.8	92.0
いいえ	24	7.7	8.0	100.0
合計	299	95.5	100.0	
欠損値	14	4.5		
合計	313	100.0		